

# フォレストニュース

**植林が地球を救う**  
平成23年(2011)4月10日  
**No. 40**  
発行 高津啓洋

## パンタナール 大湿原

パンタナールは南アメリカ大陸のほぼ中央部に位置する、世界最大級の熱帯性湿地でボリビア、ブラジル、パラグアイの3カ国にまたがり、日本の本州ほどの広さがあります。パンタナールの名前の由来は、ポルトガル語の「pântano」（日本語では、沼地を意味）です。

パンタナールの南北を流れるパラグアイ河は全長2,621kmで、北から南へ1km当り1-2cmの傾斜しかありません。そのため、パンタナール周辺に降り注いだ雨水はその領域内を網羅する支流から数ヶ月かけてゆっくりとパラグアイ河へと流れ込んでいきます。数ヶ月から半年をかけてパラグアイ河の水流はゆっくりゆっくりと南へと流れていきます。このように、南米大陸中央部に降り注いだ雨水の受け皿のような役割を果たすことで広大な湿原を形成しているのがパンタナールなのです。（乾燥と洪水を季節的に繰り返すパンタナールのような生態系を洪水平原生態系と定義されています。）

パンタナールには約1000種の鳥類、約400種の魚類（この魚類の



中には、ピラニアをも含む）、約300種の哺乳類（この中には、カピバラも含む）と480種類の爬虫類がいると考えられています。

パンタナールで稀少の動物と考えられているのは、アメリカヌマジカやオオカワウソの類です。パンタナールの一部において絶滅の危機に瀕している動物としてはスマレコンゴウインコ、カンムリノスリ、ジャガー、タテガミオオカミ、ヤブイヌ、オオアルマジロ、カピバラ、アメリカバク、オオアリクイなどが挙げられます。

パンタナールの植物相は、驚くほど多様です。パンタナールの植物相には典型的なアマゾン熱帯雨林において植生する樹木、ブラジル北東部の植物、ブラジルにおけるセラード、パラグアイ、アルゼンチンにおけるチャコと呼ばれる

地域に生える灌木群も観察することができます。森林は標高が高いところでは一年中生い茂る一方で、草本は水浸しになった場所で季節的に生えるのみとなっています。草本の生育が季節的に限定される理由は繰り返される洪水によって生育が阻まれることも一因としてありますが、乾季の間の水が不足することも大きな要因です。

## パラグアイ川が危険水位に

パラグアイ川では、1987年の大洪水以来、大きな水位上昇はありませんでした。しかし今年は、水位が上昇してきています。下の写真が、飯野元理事から送られてきました。かなりの水が、植林したところにも浸入してきているそうです。元々、私達が植林をしてきたところは乾燥が激しいところでした。

しかし今年は様相が一変して、水の浸入を止めることができません。写真は、乾季には牛も普通に向こう岸に渡っていました。今や道路も冠水し、牧場のいたるところに水が浸入しています。

一方、なかなか見ることでできなかった、カピバラが、近くまで姿を見せるよ



うになって来ました。



## 心からお見舞い 申し上げます

このたびの東日本大震災で被害に遭われた大勢の方々に心からお見舞い申し上げます。被災者の方々のご無事と被災地の一日も早いご復興を心よりお祈り申し上げます。<被災者の皆様に少しでもお役にたたい皆様へ>

東日本大震災で亡くなられたみなさまのご冥福をお祈りするとともに、そのご家族の皆様、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

私たちに何ができるかを考えて、様々な団体が、支援&募金活動を始めておられますので、その応募先の情報をお伝えさせていただきます。

NHKが中央共同募金会、日本赤十字社、NHK厚生文化事業団とともに義援金の受付をしております。下記URLよりご確認下さい。郵便振替口座なども記載されております。納得できる相手先にできる限りに義援金の応募をお願いします。

【URL】<http://www.nhk.or.jp/pr/keiei/otherpress/110314-001.html>